



令和 8 年 5 月 18 日

報道機関 各位

出雲市稗原町から約 1600 万年前のシシャモ化石の新種(イズモシシャモ)を発見

◆本件のポイント！

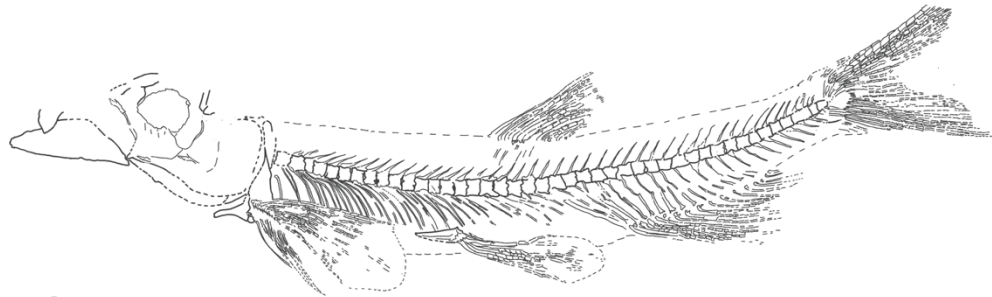
- ・シシャモ化石の新種を発見しました。
- ・これまで発見されていたシシャモ化石とは骨格形態が異なることから、新種であると判明しました。
- ・この度発見したシシャモ化石から、当時の出雲地方の環境や様子も明らかになりました。

◆本件の概要

島根大学、北九州市立自然史・歴史博物館などによる出雲市稗原町の地層と化石の共同調査の結果、約 1600 万年前の地層(川合層)からシシャモ化石の新種が発見されました。

化石は *Spirinchus izumoensis*(和名:イズモシシャモ)と命名され、2026 年 4 月 29 日に日本古生物学会の国際誌「Paleontological Research」の第 30 巻にオンラインで公表されました。

◆本件に関する写真



1 cm

イズモシシャモの化石写真とスケッチ(©濱田真実ほか)



◆概要内容

島根県出雲市稗原町に分布する、今から約 1600 万年前に形成された川合層(かわいそう)からシシャモ化石の新種が発見されました。地層と化石の調査は島根大学総合理工学部地球科学科の入月俊明研究室が中心となり、北九州市立自然史・歴史博物館の藪本美孝博士、元島根県地学会会長の高尾 彬氏と共同で行われ、昨年度、同研究室に所属し、島根大学から博士(理学)の学位を取得した濱田真実さん(現・松江市ジオパーク推進室)が筆頭著者として、この度、日本古生物学会が発行する国際学術雑誌の *Paleontological Research* 誌に論文が公表されました。シシャモ化石は、出雲市の地名がついた *Spirinchus izumoensis*(和名:イズモシシャモ)と命名され、オスの個体であることがわかりました。シシャモ化石は鳥取県でも今から 1700 万年前の地層から発見されていますが、それとは臀鰭付近の骨格形態が異なることが判明し、新種記載に至りました。この発見により、当時の出雲地方は淡水と海水が混ざった汽水域が広がっており、シシャモは現在では寒冷域に生息していますが、当時は、暖かい山陰沿岸にも広く生息していたことがわかりました。

◆本件の連絡先 ※[at]は@に置き換えてください

- 松江市ジオパーク推進室 濱田真実
Tel: 0852-55-5399
- 島根大学総合理工学部地球科学科 入月俊明
Mail: irizuki[at]riko.shimane-u.ac.jp
Tel: 0852-32-6457
- 北九州市立自然史・歴史博物館 藪本美孝
Mail: kmmyyabu[at]me.com (<https://www.kmnh.jp/contact/>)
Tel: 093-681-1011

◇その他

・論文の URL:

https://www.jstage.jst.go.jp/article/prpsj/30/0/30_250030/article/-char/en

・論文情報:

Mami Hamada, Yoshitaka Yabumoto, Naoya Arita, Toshiaki Irizuki, Akira Takao , 2026, A new Miocene smelt fish, *Spirinchus izumoensis* sp. nov. (Osmeriformes, Osmeridae) from Hiebara in Izumo, Shimane, Japan. *Paleontological Research*, vol. 30. p. 66-76.

DOI: <https://doi.org/10.2517/prpsj.250030>

【 添付資料: あり(枚) なし 】